

自分の専門はスポーツ社会学です。主に英国カルチュラルスタディズをベースにしており、スポーツの権力作用についての分析を中心におこなっています。グローバリゼーションの諸問題も力を入れている研究テーマです。障害者スポーツについては実践も含めて現在取り組んでいます。

1. 専門演習の目標

スポーツに関わる社会的事象を、社会学やカルチュラルスタディズの知見を用いて、批判的に見ることが出来る「まなざし」を養うことです。

2. 専門演習で扱う課題と内容

スポーツ・ボランティアが登場したことの意味のひとつは、日本のスポーツの場の中に新しい組織文化を生み出したことです。では組織文化とは何でしょうか。それは情報の伝達様式や、物事の組織的な決め方などです。それはスタイルとして定着し、相互の学びあいの中で徐々に広まってきているように思えます。この演習では理論と実地調査とを通してその実態を分析します。

3. 授業の進め方・内容

1. 前期はスポーツ・ボランティアと組織文化についての理論を学び、後期に行う調査のテーマを絞っていきます。
2. それをもとに後期は実態調査に入ります。これまで主にJリーグやBJリーグのサポーターの諸活動を中心に調査を行ってきました。調査対象となったのは大分、新潟、甲府、愛媛、熊本、大阪のNPO団体などです。各自の調査関心に応じて対象を設定することになります。
3. 調査は秋から冬にかけて行い、そのデータを分析し、報告集として公刊したいと思います。
4. 4回生はこれらのテーマをしたじきに、個々人でテーマ設定して卒論作成を進めていくことになります。ただしテーマは各自の関心に応じて自由なものとなります。

4. 必要とする知識

「社会運動」や「市民活動」と行った領域の知識が必要となります。演習の前期で深めていきます。

5. 関連する分野・科目・知識

ボランティア論、市民社会論、社会運動論、スポーツ社会学、スポーツマネジメント論、地域社会論など。このような科目を平行して履修することが望まれます。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

西城戸 誠 『抗いの条件—社会運動の文化論的アプローチ』 人文書院 2008

アルベルト・メルッチ 『現代に生きる遊牧民』 岩波書店 2000

スポーツ社会学会編 『変容する世界とスポーツ』 世界思想社 1998

7. 独自に付加する選考方法

特になし

8. 受講生に望むこと

このゼミはスポーツを批判的、社会的に分析することをめざしています。受講生はそれゆえ、スポーツ学ではなく、社会学としてスポーツを学ぶと思ってきてください。